

市民文芸

短歌

令和六年度
阿南市春季短歌誌上大会 選

最優秀賞・特選

雪解けのぬかるみに伏すぬいぐるみ災害ゴミと
名を付けられて
亀島賀陽子

優秀賞・特選

白梅や負けてなるかと困碁の友老いも楽しや
九十二歳
西田 修身

歌わねばいづれ消えゆく歌のあり憎んだ事も愛
した事も
吉永賀代子

雛のごと父の胡坐に温む日の特等席は煙草の匂
い(互選賞三位)
庄野 悦子

長押まで両の手伸ばし「ストレッチ」夫の遺影
に語りかけつつ
青木 弘子

秀作賞・特選

木蓮の花につがるの鳥がきて明るき昼をほしい
ままにす
喜来富士子

こころよき春風うけて畑に鋤く吾が誕生日鶯が
鳴く
勢井 恒子

コピー機は十萬円の手続きに後ろめたさも写す
のだろか
森 ゆき子

気の利いた言葉探せぬ末の孫帰りまぎわに
「ばー死ぬなよ」と(互選賞一位)
佐野 幸子

平凡社の古き辞典を繕きて道長の家系調べ見る
なり
紅露 勝子

俳句

阿南市俳句連合会 選

緑濃き柿の若葉が風に揺れ

多田紀久代

靴下の片方探す夏の真夜

陶久 晴義

駐車して顔を上げれば桐の花

小西 晴美

椎若葉子供歌舞伎の紙捻り

中富はるか

庭椅子に赤きパラソル犬の席

浜田百合子

山滴る顔までほてる足湯かな

表原 清美

柿若葉珈琲一碗まつたりと

田上 隆敏

豆飯の匂ひの中に帰りけり

繁木 良子

揃うて飛び揃うて並ぶ雀の子

河内 おと

夏鶯美声はすれど姿なく

久米 浩一

川柳

阿南川柳会 選

また一つ増えたダイヤと隠しごと

神野 鈴代

執念で次へと繋ぐ甲子園

近藤 大地

花びらの切符どこまで花電車

鈴木レイ子

五分間変身できるカラオケは

篠原 良子

杖となる愛妻ありて今日の幸

西田 修身

退屈という靴はいて散歩する

若木アヤ子

人の道説いて都会へ送り出す

渡邊ろまん

一般応募

始めて会う米寿の顔へ拭く鏡

鳥尾美津子

断捨離を拒み続ける箱の靴

泰地 重美

筋肉がお先に減ったダイエット

武田 敏子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

夏日即事

天畔模糊送雨雲

増喜 泰典

半晴半濕綠紛紛

雨を送るの雲

煩襟閑却涼臺上

緑は紛紜たり

影落幽庭坐夕暝

涼台の上

夏雨

飛雷股股半天雲

荒瀬左知子

風起雨來衰草欣

飛雷股股 半天の雲

霽止長虹閑白日

風起こり雨来たりて 衰草欣ぶ

殘鳴輾輾遠猶聞

霽止長虹 閑 白日

螢を看る

留連橋畔雨冥冥

田中 公

晝伏宵醒蘆荻螢

留連の橋畔 雨冥冥

親止指頭明又滅

晝伏し宵に醒めたり 芦荻の螢

亂飛高上滿天星

親しく指頭に止まって 明又滅

亂飛高上れば

満天の星

